

自序

むろくそ者、むろく山一むろくがみ。むろくハ
 川むろく深むろくぶむろくのむろく娘むろくのむろくげむろくとむろく村むろくのむろく意
 とむろくのむろく意むろくをむろく欠むろくくむろくらむろくみむろくとむろくひむろくしむろくや
 糸むろくのむろく伊むろく人むろく目むろくをむろくすむろくりむろくまむろくんむろくでむろくんむろくさむろくり
 山むろく椒むろく涼むろく増むろくるむろくまむろく命むろくをむろく傷むろくとむろくしむろく也むろく匠むろく
むろくのむろく志むろくはむろく伊むろく人むろくよむろく打むろく楽むろく消むろく滅むろくりむろく也むろく

一
 一

未世のし集まらぬ乃平は休連うまを
雲今と名付たり相祖父山より三海
あゝ娘ご飛ぶくといふさうくも世
色に中はば飛ぶとあやうき飛ぶ
半ぶくといふといはくもを
子の娘りく

成乃九月

凡集山人誌



飛ぶ鳥の評

家も亦徒然なる終よ日く一硯小
むらして公のうらみなり
てい天々となくさげくも、いさ 謠の皮
折角ちのい智恵の底を叩て工夫
仕出と金原草もなるの雨天よ
乃つ之際あしを新なる川ハセ

車やの別荘べつそうより凡種ばんしゆでも酒しゆも
でもちやく浪人の遊あそ住ぢ居ゑ喰くひひん樂がく
のこがしした。主人しゆじんの款くわんりや飯いひ粒つぶ紙し
二百石にひゃくしやく三石さんしやくを肩かたてて中ちゆうの町まちで
物ものもあつた。思おもひひ苦くままのやうやうにに二に米まいり
を味あじ工く面めんままりや四し海かい皆みな女によ房ぼうぢぢりりと
悟さとひひの床とこ免まぬも淋しみふふむむとと二人ふたりで

きよまりきよまり閑いひくくも睡しよ鳩きゆうハ三股さんこの物
り何なにり窈窕ようてうたる妓女ぎよハ中洲ちゆうしゆうも好この
速すみありと口くちををみみするおおも表うらの
方かたより人ひと声こゑして飛とびびててりりとと市川いちがわは
堂どう十じゆゆゆとと幸さいの六む禪ぜん判はん又また波なみはは家いえ
後ご庭ていででいいるる。惚おぼるるもも程ほどををほほし
惚おぼるるああぬぬりりとと飛とびびててりりとと

此の賣声の例のたゞもや
やんやまはるる人
まゝて曰。世者一枚成る。市川
當十の或後家。答ひの成るも
出づ。既市川の苗字を削り
其店も操る。其社事なり。て
きかざる。世息つての例を

少て。予笑て。向て曰。市川當十師と
何人か。や彼人彼とて曰。此
了。彼者。彼者。彼者。あやう
元。社家。十師。一天下。よ名を揚て。より
初。の。拍。遊。後。の。海。老。花。今。の。當。十。師。
都。都。遠。近。三。歳。の。ふ。り。ま。り。
現。玉。と。し。八。束。十。師。と。名。を。け。道。姑。

上かみとく。或ハ女のかみ梳かみ并なみ。手て拭ぬぐ浴ゆ衣い調たう
草くさ入い。見み以も唇くちびるのな取ととと。事こと先ま六むハ
不ふ通とのなああひひししどど。付つききせせるる祝いわや
亭ていままううづづ坊ぼうととふふおおししてて。役やく者ものの
方かたココ科かハハヤヤ。又また真ま勤しんのな女に中ちゆうるるん。
法はふとと求もと孫まごのなししてて。扇あふぎ揚あ扱あるるよ。
役やく者もののな心こころのな発はつ白はくととささてて替かへへてて。

是こゝととももふふりり。社しゃ所じよのな書しよ筆ひつ字じああららは
色いろ紙しもも精せい小せうとと止と止と。更さらもも千せん差さ
万まん別べつ蓼れう字じ虫むしもも好このくくとと。色いろくく負おひひ肩かた
く。或あるハハ西せいのな下げ棧せき友とも通とううななぐぐりり
控かへ伺かへ文ぶんうう執しつりりううきき少せうハハ種しゆ々々様やう
のな名なととええんん。中ちゆうもも後ご家けのなめめききひひれ。
借かりりり人ひとのな仕し合あ貸か人ひとのな執しつびび。ささししハハ奴やつらら

土子こ。成て。賞あづかり。勸すすむ。八斗はつと。智ちり。ままと。六
能のう。仕つか。て。細こ。工こう。よよ。く。どど。しし。よよ。もも。まま。つつ。らら。おお。生せい
の。松しょう。年ねん。賣う。とと。いい。はは。ささ。ちち。らら。んん。ここ。ちち。はは。後ご。家け
もも。素す。人ひと。なな。しし。能のう。野や。鴨も。の。類るい。よよ。めめ。てて。ここ。の
目め。もも。まま。ぬぬ。もも。各かく。々々。るる。ひひ。後ご。者しゃ。の。後ご
家け。なな。よよ。大だい。きき。なな。すす。評へい。判はん。をを。いい。どど。もも。おお。もも。也や
彼か。家け。十じゅう。代だい。にに。はは。儒にう。者しゃ。ちち。らら。おお。よよ。也や

後ご。家け。よよ。貞てい。女にょ。ああ。まま。まま。まま。みみ。だだ。の。女にょ。乃なり
乃なり。以もつ。破やぶ。らら。せせ。ここ。もも。もも。定さだ。めめ。らら。妻さい。の。外ぐわい
。此こゝ。乃なり。女にょ。以もつ。犯とが。しし。以もつ。中ちゆう。也や。の。端たん。掛か
る。不ふ。均くわん。をを。はは。おお。くく。まま。法ぽう。るる。ひひ。たた。しし
づづ。かか。しし。おお。もも。後ご。者しゃ。の。後ご。家け。やや。いい。ハ
能のう。多た。法ぽう。よよ。別べつ。れれ。てて。又また。の。夫ふう。とと。まま。け
ちち。よよ。まま。の。女にょ。の。名な。もも。同どう。前ぜん。とと。いい。まま。六

へこむ人いぬおせみのかきまき梅
 花のすむらとあつるゆくと空年
 のはゆふか大なるるに^{こころ}諭ちぬ
 君子の過あやまち日月の蝕のどく過時
 人をもまのさししめては道の
 後家なる乃年と信うらふおぼゆる
 いたるは^ま接の各代のかぢ
 當堂十^しゆもむても株とあきんは
 中の長石がまきあことあ却てま
 母く口かしくハ彼人大は後とま
 後家と契りて形取沙汰り及事
 とを^ち神し理と付おがせといふ人
 さま守りも後家さ下んまをかくと
 みの外乃後とま前詞と和げけく

へこむ人いぬおせみのかきまき梅
 花のすむらとあつるゆくと空年
 のはゆふか大なるるに^{こころ}諭ちぬ
 君子の過あやまち日月の蝕のどく過時
 人をもまのさししめては道の
 後家なる乃年と信うらふおぼゆる
 いたるは^ま接の各代のかぢ
 當堂十^しゆもむても株とあきんは
 中の長石がまきあことあ却てま
 母く口かしくハ彼人大は後とま
 後家と契りて形取沙汰り及事
 とを^ち神し理と付おがせといふ人
 さま守りも後家さ下んまをかくと
 みの外乃後とま前詞と和げけく

教て曰。小言めりて推くべし。小悪
かりとて打んぐらひ。是六一通り
まじし事とて。寐て起てて飯と
汁と香のお斗合て居し。病氣も
出ん甚らむ。もよんし。はひおの
ほくおハ。おを他人欲とて。百病ハ
こより入。法事の災彼よりおこる

是も親父のゆてくれと。女房斗かぢつ
て居し。懲捨もくば。穢も入ぢ。結
搦ももや。小ども。あも人もよ。六つ
うん。踏を。小も。おちれも。同
操や。踏を。つ。でも。ま。せぬ
る。の。け。知。ぐ。あ。ね。必。災。よ。ま。あ
お。ち。り。あ。門。人。何。業。が。古。々。一。層。

饒別よ。送る。一書みよ。て。此出
て。ん。や。ら。る。

門人何某曰

予若年の時漢書と讀む。程侯
中に入て秦の苛法と去。法三章と
之。亦も自法之章。引して血氣
の林いさめと。盜やサガク。皆悉。矣大と。密と。夫と。たり。以レ。之レ。の

要レ。き。つ。た。ふ。い。も。ち。う。く。も。事レ。が。ん。ん。
我。ち。も。あ。ら。う。さ。し。あ。ら。う。と
禁む。む。し。

大石門義介。好里。を。在。て。八。面。を。ま
る。世。の。風。流。の。士。と。さ。の。の。皆。事。は。
只。教。と。付。事。と。志。ざ。る。ん。主。我。の。教
の。教。と。あ。ら。う。ん。人。と。志。を。処。事。業

詠る休皆歌と持り。討むんはま
り。此と^{オマヤシト}此位生^ギ臥^ハしと思ふ。あ
ちのおよりこち。此稱^カ鍾^{ゾウ}がまま。故
面公まゝのやなまま。只も歌を討
とまゝ下。まゝままま。久し
奥^マと^ウ酒と吞^ク吐^ク。酒^サと^ウ業^ウと
奥と吞^ク吐^クなりし

友人何某大いふ。計と矢^イとく。ま
ま。後^ダ止^ムま^ル。或人^シ傍^カに在^ル
同く曰。汝ら首^カ有^ルや。友人曰。予ら曰。
首^カの^ハ何の憂^ウる^ハ何^ノんと。大い
て去^ル。山^ノと守^ルて。論^ノ実^ノなる^ハと
いふ人。予ら答^テて曰。大丈夫^ト事^トや。今
時^ニ臨^ミて。批^キ裁^キ猶^モ遠^クま^ル。以^テ然^ルを

本固^{もとこ}を悪^あむ。つしを^{おん}きと^ん思^んて首
 の^{おん}及^んぎと^ん申^んを^{おん}ま^ん下^ん。幸^あれ^んと^んま^んぬ^ん
 ハ道^{みち}の^{おん}何^んに^{おん}人^んを^{おん}よ^ん同^んハ首^{くび}乃^{すなは}ガ^ん
 つく^ん幸^あ多^くと^んべ^ん。孟子^{めいし}の^{おん}必^んす^ん入^ん
 大^{たい}禁^{きん}と^ん同^ん也。首^{くび}の^{おん}刃^んを^{おん}入^んえ^んと^ん徳^{とく}
 一^{いち}と^ん禁^{きん}の^{おん}一^{いち}也^{なり}

公^{こう}の^{おん}言^んを^{おん}き^んも^{おん}あ^んハ^ん何^んの^{おん}ね^んた^ん

扁^{ひの}柏^{まき}の上^の材^ま本^{もと}て^もお^んよ^んり^ん絶^つハ^ん掛^け
 せ^んハ^ん先^まの^{おん}斧^きと^ん斧^きと^ん兼^あ削^け盗^{とう}持^ぢ真^ま持^ぢ
 丈^{さか}の^{おん}朽^く走^{そう}入^にぎ^んハ^んの^{おん}て^んも^{おん}絶^つハ^んう^ん
 かり^ん彼^かの^{おん}事^じ十^{じゅう}の^{おん}九^くハ^ん人^{にん}の^{おん}業^{わざ}の^{おん}故^ゆ也^{なり}
 お^ん中^{ちゆう}也^{なり}。其^{その}藉^{せき}と^ん集^あふ^ん徧^{へん}諧^{わい}と^ん樂^{らく}
 是^{これ}と^んあ^んま^んは^ん法^{ぽう}も^{おん}た^んり^んく^ん。本^{もと}場^{ばう}も^{おん}た^んり^ん
 の^{おん}釈^{しやく}又^{また}も^{おん}。ま^んと^んせ^ん年^{ねん}ハ^んの^{おん}か^んハ^んを^{おん}害^{がい}也^{なり}

風来山人と記さるる。是
皆書林智あるかくん錢を
欲が。漫子 先生の名を
かゝる。言語道断不届
千万あり。まぶし。え 評判

茶の聲は。孫懐先生の
作り。人筆勢頗お似れ
とも。作れる花の白ひなきが
と。其餘茶の朱と茶い。
美の苗とみぐる。而巴あつて。

炭團たんと名玉なたまと歌うた寺てら夜よ

宵よると盛さか三さんと憐あはれるるこもの女をんな

かゞ今いまより後のち望のぞみ判はん

可たがい人ひととしし。先生せんせい笑わらひて曰いわく。

家いへ飯いひと喰くふて人の聲こゑ色いろを

覺おぼゆ。皆みな人ひとへの物もの好このみ。音ね

万人ばんにん目め明ある人ひと。喜よろこぶも亦また危あやしの

後のち世よあるは強つよく替かへるるよ及およぶ

ばまを。其その終はつみおちやう至いたるるぬ。

頃ま日ひ書か肆し清きよ風かぜ堂どう。大おほ場ば

氏の方より。天狗てんぐ繻繻きんきん鑿くわ

定縁起と得て榎木より

鏤む是ぞ正真正正縁の

風来先生の作あり。善と

惡とハおもしろくして清見

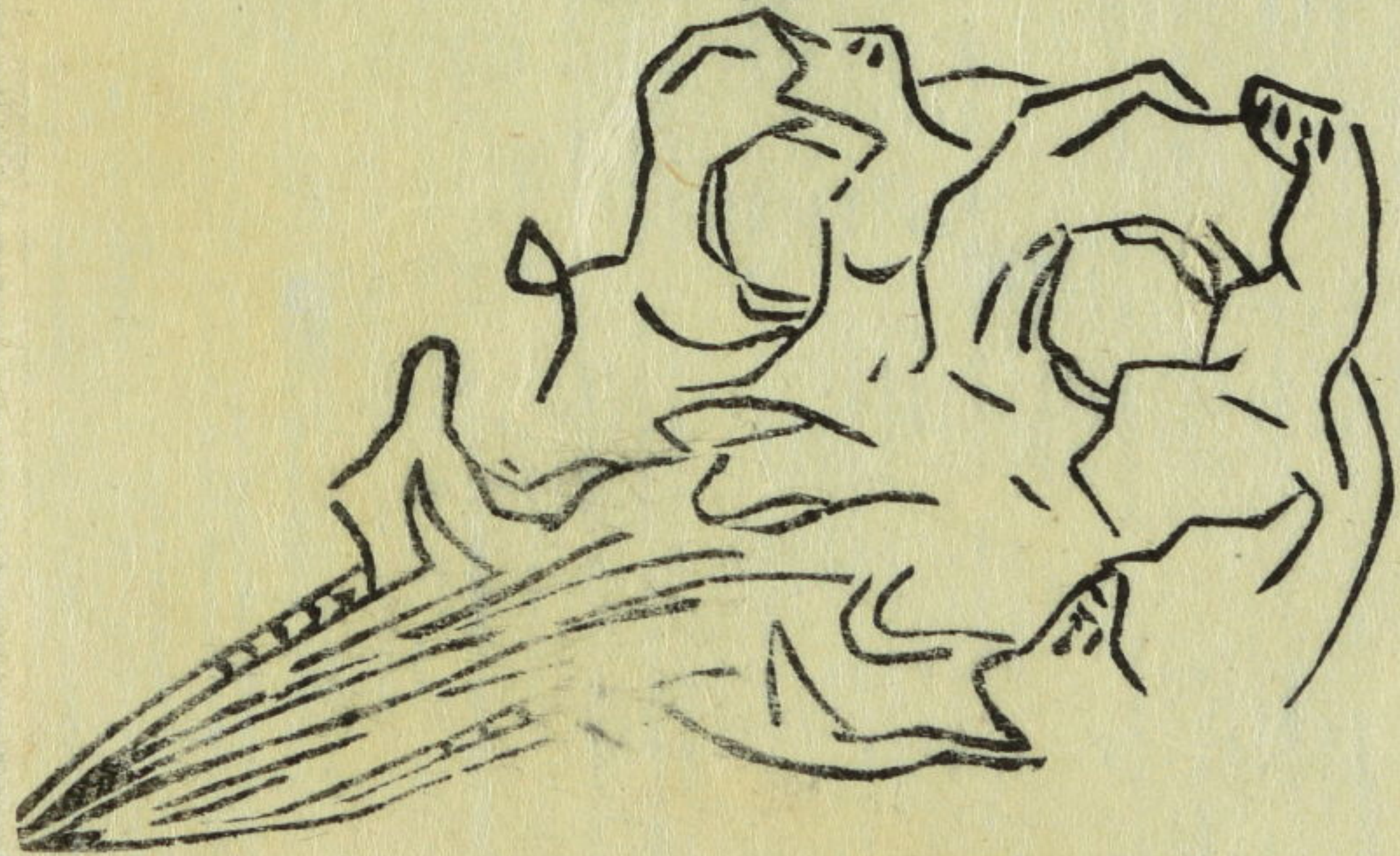
ト云れ。

戲牒謹誌



天狗髑髏圖

頭大廿六寸余
鬚七寸余
目のくま成丸二寸五分
耳の丸二寸五分
松
咽のくまの丸二寸
都一尺二寸余



序

不時吹抜る天狗風と
山岳。當りて可成天狗
跡と云。天狗乳母子。天
狗乳母等。これ阿そド

満み心こころよりより号あざみしし水みづ香かほ。平へいが
拾ひろ得とくく云い肯けんをを。天てん狗く
子こ福ふく麟りんとと心こころひひ起おこ死しし
毛け此こゝ乳にひひななくく世よのの志しの
新あらた我われ風かぜ年とし本もと先まへ生なま草くさをを

採とりり中ちゆうよりより常あまねくく世よ上の小こ
徳とくれれ外がくく見みむむ子こののをを
祿ろく子こ人ひと多おほしし。系けいもも亦また
出いだだ我われ刃やいば勢いきほへへ。鈔せうをを
取とりり身み工たくみ之の以もつてて。只ただ持もち

安ん即人際^{ひま}我法い中せ
 だ。法^{まろ}其子能見きまのん
 人姑目とくらまき人みえ
 ありばいん
 二毛とちう
 山乃と物でもれし

と口すさみん一塵の
 笑^{くろく}程^{がさ}と一考^{くわう}我^が今
 書^{しよ}林^{りん}其^{その}毛^{もう}と多^たん
 應^{おう}一^{いつ}寫^{しやう}一^{いつ}あを
 ぬ。

摩

大場豊水誌



天狗髑髏鑑定録起

明和七のころ兼月末乃四日門人
 ありて藥物の生偽成偽氏折廻
 一乃異物を携へありて曰昨夜三
 狗成爰也今朝夢ありて思ふも
 廿四日そや宿乃孫日ぬきばく

芝の如く窟に宿るに。門前櫻川と号
する小流此中又怪あやした相ありいひ拾上
て泥土乃穢けを洗けきぬ。志しうぐの物
形かたちとして遂つい成なりて用もちて用もちて。多おほく此この
を以て帰かへるの道みちえ。又またるまの皆みな天
狗の體かたち騷さわるるとして市いち成なりて俗しやく。
人乃あまの信まこと見み説せつとするに是こゝる希まれハ先生

生まれを無なせよと。予たか諾たかして門人かど子
告つて。各おのづか其その志こころ成ないして。一人ひとりが曰いふ。これ
大おほき頭かぶの形かたちなり。何なに蘭らん院いんの如ごとく。是こゝと
強つよくいふはらん。又また一人ひとり曰いふ。塵ちん夷いはな大おほき
魚うもも斯ごとく大おほき魚うももべべくくべべととれ大おほき魚う
乃すなはち頭かぶ骨ほねももらんらんととるる處ところ上う下げの端はみ異こと説せつま
ちくちくりて鬼おに儀ぎ一ひと変かへん。予たか曰いふ。これ天



狗の志帯れり。門人驚て曰。吏
 倭俗乃天狗と称するものハ全く
 魅魍魎と指しあれども。定れり形を
 画すも下りべ。然るも今世ハ天狗を画
 くに鼻高たハ心乃高慢鼻高た
 こそ標して大天狗の容と一又
 此也。駄口と利て差出らる木

の業天狗溝飛天狗乃形状多
 ありて草鞋、杖、杖、飛、
 行もさる自由不かくさ。松乃梢
 居下れども。店屋、杖、出、杖、
 舟、扇、ハ、入、ハ、不、怪、
 碁、ハ、画、工、乃、思、ハ、
 不、乃、ハ、物、ハ、ハ、ハ、
 聖人も

怪力亂神を誥ふべしと云々の玉へ。満
是哉天狗也。弱勝ことと我く欺欺
あり名。予曰。諸子也疑ふの理れき。何
ら次。去をのり。我微意を悟すんハいざ
は。バ。後。く。聞。き。ん。古。人。乃。曰。藥。を。賣
る。の。ハ。兩。眼。茶。を。用。る。者。ハ。一。眼。茶。は
眼。を。用。る。者。ハ。無。眼。と。ハ。と。昔。ハ。習。今

時。の。醫。者。と。い。ふ。武。士。の。子。も。れ。情。弱
者。百。姓。の。き。ハ。疎。懶。者。町。人。を。れ。高。哉
為。り。す。或。人。の。き。ハ。無。急。用。者。え。糊。口
を。者。急。用。の。醫。者。を。を。あ。く。ふ。と。い。ふ。
これ。を。号。て。也。も。醫。者。と。い。ふ。何。れ。も。
ア。此。長。羽。織。ア。と。え。と。座。あり。中。え。茶
乃。事。ハ。陳。皮。も。志。く。ん。長。登。も。五。路。路。を

踏ふみえまへるもりたらだらけが醫者
どらけ。菜種なづなも盲めくら醫者いしやえめらら。
病家びやうかハ矜あはれ盲めくら。臭くさ橘たちを枳き殼こと
鼠ねずみ翅はね草くさ或ある花はなと。鯨くじら乃すなはち牙はをう
小こかううるし。氣き蟻あひ或ある蟻あひ虫むしと。翻うら
白菜さいさいと柴胡さいこと心しん得とく廣くわん東とう人じん參じん或
人じん參じんと思おもふ。其外そのほか千變せんぺん萬化ばんげ乃すなはち大

間遠まんとされとる浮世うきよハ盲めくら人ひととく
らんらんの茅ちやうハもくらんらん病びやうが買かひ習じゆあれ
ハ是こゝを賣うるまの家いえ蔵くら或ある建たてこれを用
るものの四あま枚まい肩かた子こ象ぞう。此こゝを吞の者もの往むか
生なま乃すなはち素そ懐わい或あるげれう。眼まなこをせね
ハ氣きの毒どくふと毛け思おもふん鳴な呼こ死し
う形かたち文ぶん盲めくらあるれ。予よれを憂うれ入い藥やく

物此真偽を正し一世上乃醫者の目
 我^{あや}明んとく千^{えん}辛万^{えん}苦を^くれ^んば^らめ^ら
 が心不引^{しん}あ^らく山^{さん}を^くく^りて^ん取^と沙^{しゃ}汰^た智^ち者^者
 ハ水^{みづ}以^も樂^{らく}仁^に老^{らう}ハ山^{さん}を^く樂^{らく}后^{こう}稷^{しやく}ハ農^{のう}以^も
 教^{しやく}え禹^う王^{わう}を^く治^ちむ^り過^かく^りる^をを^くを^く
 ぬ^ぬき^き足^あが^がら^ら以^も補^ほふ^り聖^{せい}人^{にん}乃^{すなは}く^はい^はさ^しせ^し
 ぬ^ぬり^り。山^{さん}の^の中^{ちゆう}に^にあ^ある^る山^{さん}は^は羊^{やう}。鰻^{うなぎ}鱺^{しほ}と^とも^も

ら^らて^て栲^く果^{くわ}ぬ^ぬは^は暮^ぼ菴^{あん}と^とも^も井^{せい}諸^{しよ}と^とも^も
 昔^こひ^ひ奴^ぬ等^{とう}が^が口^{くち}に^に端^{たん}よ^よか^かる^る浮^う世^せに^に
 産^うれ^れ来^きる^る牛^{うし}乃^{すなは}く^は糞^{ふん}を^を胡^こ麻^ま味^み噌^{そう}や^や
 ら^ら。石^{いし}み^みら^らる^るち^ちや^やに^に流^{りゅう}浚^{しゆん}海^{かい}參^{さん}此^こ瓦^わ
 や^や取^とち^ちや^や。蟹^{かに}の^の足^{あし}を^を横^{よこ}道^{だう}を^をら^らふ^ふ
 が^がか^から^らう^うへ^へと^とち^ちり^りあ^あぐ^ぐこ^こづ^づ銭^{せん}を^をら^らる^るもの^{もの}に^に
 利^り口^{くち}に^に入^いる^るえ^え出^でる^る杭^{かひ}ハ^ハ打^うち^ちを^をお^おひ^ひ。天^{てん}物^{ぶつ}

乃ちつゝぬれ其偽を論じ。時代移うつセ
バ腹はらが痛いたむ。日ひが重おもいハ店みせ賃ちやうがふへ月
が延のびれは質しちり流ながる。儒者じゆハ本田ほんには毎
れ通とほり者もの以もてころ。堯舜ぎやうじゆんの民たみこ
ちめんとし。賢女けん兩夫子りゆうふ見まえんと。女
郎にやう居いれ二階にかいく浮う澤さくををるハは蟻あひ蟻あひ
がちう松しょう以もてころ。我われ子こ似によとりが如ごとし。

動うごと止とどまの文字もじハ今いまあてをも。馬うまめが
合あはつたきぬハ世よ話わやがあらまけ
ぬづも。腹はらへまりる薬くすりハ人ひと命いのち乃
存いせよあづれハはゆめまても赤あか目
引ひきり。某た時とき珍めづしありからう。一い問
答たうたふせのどあらぬど吞のもせげ傳たへ
せど目めをめがんがうらう。毒どく小

えぬく。其素少也。何れお素ともい
あしきれば。諸人自其^{ごうり}して天狗
とつて^ま嬉しがるべ。其波^あ揚
その^ま醜をまて。天狗みするが
卓^{たく}見^{けん}あり。その^{ぬい}後目乃^の蚕^の虱^ちさ
悉^{ことごとく}ハフんを^させん^だ。おして天地の廣^{くわう}
大^{たい}なる^{さい}萬物比^{ごん}際^{げん}を^た現^{げん}。一人の目^め以

ひく^か極^{かく}が^くけ^けれ^れハ^ハ善^{ぜん}ハ^ハ待^{たい}尔^に画^{かく}天^{てん}
狗^く殿^{てん}が^がお^お出^しや^やる^る處^{ところ}い^いもの^{もの}なる^{なる}べ^べ。
有^ある^るそ^そえ^え天^{てん}狗^くが^が入^いる^るさ^さら^らに^に有^ある^る
男^{おとこ}が^があ^あけ^けれ^れハ^ハ微^み塵^{じん}も^もく^くを^をあ^あん
とも^{とも}ぬ^ぬく^く。と^とい^いて^て小^こき^き細^{さい}の^の切^きる^る法^{ほう}
み^み不^ふ自^じ由^{ゆう}を^をし^し思^しは^はぬ^ぬ。只^{ただ}造^{ぞう}化^{くわ}と
ひ^ひくる^{くる}細^{さい}工^{こう}人^{にん}乃^のお^おん^ん持^{もち}次^じ等^{とう}の^の若^{わか}

又天狗も何れ死すと根回さる人乃
る取らばちまうり高勝るるを科とがあま
者を悪くいふなり。人びと食さるりづん抗
どうらかりと云。天狗は親玉太
坊屋怒をぬく。木乃多葉て物成り
とく首祿ぢ切く捨てる成。楚水
が見つけて拾ひ上り物ぬく。これ

皆余所の事あり。以今時世上に
目がつけまは。おとふくし流成り
せば奪うと思ふく。ききつけともが。
糸不志くうり馬鹿みするを。謙退
辞讓ハ間ふ念ぐ。高勝、いふぬハ損
なれども。又此高慢ぐるる時ハ天道
かゝるるを憂えく。必憂目ふり

そのなり。人々嬉しくうらやまは。皆
尤とくれつたぬ

天狗と野までいふと喜ぶ人
極くやうが通りなりのなり

風来山人書

跋

天狗髑髏鑿定縁起といふ事。
一とせり、然り、ちし。大場豊水
興へるを此頃書林開板し、らと。
或人見く、予不謂、日嗚呼子、
淺るる甚し。彼文中鑿者、
藥店共り、盲し。陳皮と志し、

跋

書

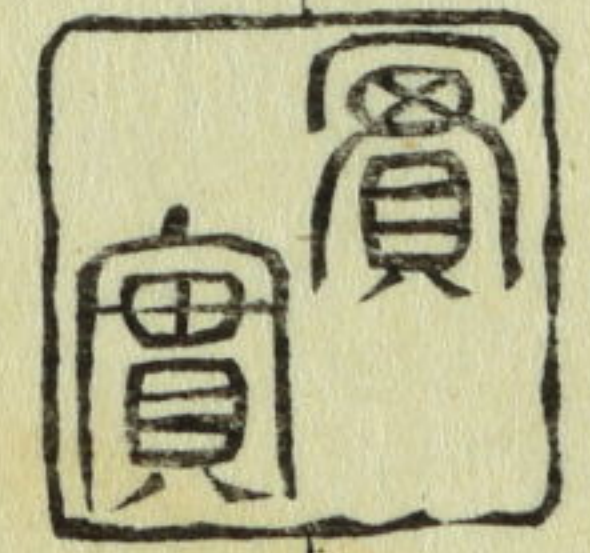
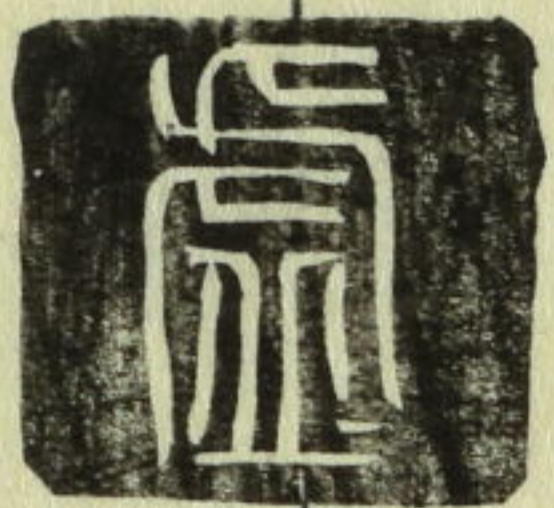
何れもや。陳皮、蜜柑の皮なり。三歳乃小兒を能是を知る。以前。此文を削去て世の嘲を免る。神農本草經。橘柚とる。後世二物自のなる。或方書子橘皮と記。陳皮

高皮のわらあり。然るを香川。氏うそ撰る。後言をい。古方家と稱する。文盲学者とも。陳皮故捨る。青皮向らとつ。陰陽造化の理。暗く。菜を志。療治を。坐行を。輜夫と成。達磨ら串童を勤る。

似たり。蜜柑の皮より腹の皮目以
 笑止千万と思ふ息が鼻一
 ぬけ散まり。アキチちうせく
 たり。こけおどりの大さうり
 あらじ。習ひにくば敷て屋敷
 屋。いふは悪たいを無念に
 思ふ。せみ屋よもせよ。はるあまも

せよ。羞し菜もさく並で陳
 皮一味のりありとも。こくらふと
 いふ人なう。来りく赤い議
 議せよ。所ハ神田大和町の代地。
 一月三分の貸店子。負くら
 苦せとも本若も隠まはく。
 時子安永五ツのやう。尻

笑まつ赤ういちちよ申し極く月げつ借金しやくきん乞こ不ふ
いい訣けつのの暇ひま風かぜ来き山さん人にん識し



里り乃のををてて多た評ひやう自じ序しよ

莊まう子どがが寓ぐう言ごんはの式しき部ぶがの筆ひつぎぎとと
みみ司し馬ま相さう如じゆがの子し虚きよ鳥ちゆう有ゆう弘こう法ぽう
大だい師しのの兔と角かく龜きん毛もう去きりりととててハ
久く一いつのの物ものありあり予よもも亦また被ひ虚きよ云いふ也なり

たつひ、こころ象^ま跡^ま志^しぬ^ぬ麻布先生。
古遊こころ花景はなけい乃人物にんぶつを設しやうく訛し
八百を書ららしし針はりを持もて
いひし。火をいいく水みづととももハ、象しやうが
持もてへの滑ころも誓せいあり、文の餘情よせいの

譚た言いあり、或ある不ふ知ち地ち名なあり、
人の耳みみ馴なるる便たより直ただち其その名なを
いいへど、おぼ因ゆゆ物もの語ことば多おほれ、
はり、あや怪あやし、
安本元年けのえ手て狐きつね乃なりらるる秋。



有頂うていとう天皇九代くわいだい後胤ごいん風来散人
の居い續つづのの風かぜ呂ろ揚あげ宿しゆく酒さけ乃の夢ゆめ中ちゆう子こ
 筆ふでをを播はね。

伊勢
 伊勢
 伊勢

終

吉原
細見里のてし巻評

賢と學とえんと色いろと易やすと。唐たう乃親父おやどとむご
とのひひ外面似菩薩えん内うち如衣ごと又と。天竺てんぢくのてら
との皮が意いひ入いるりのりのりを。面白おもしろといふ事
と春はるのてらてらおるおる凡たゞままども。氣き短たんううののてらてらいいててははららいいぬぬと
雲くもに臨まりまりりののてらてらいいててははららいいぬぬと
州しゅう府ふと構かまへへ月つき麻布あぶ先生せんせいと号ごうする人あり。

さき六ろく結むすき後のち工たくら牛八うはち牛連うしづら馬連うまづら回氣くわいき
お求もと回くわい敷しきお集あつの習しゆにに古こ極ごく教きやう人にんといふ
志しれれそのその殊たふし異いれれ見み舞まりりししおお音ね麻あ
布ふ先生せんせい乃すなは門かど人びと花はな系けいといいくく尚なほ世よ男おとこ求もと
柳やなぎのの四よ方かた山やま乃すなはそのその候ごう之この人ひと奈なままのの文ぶん殊しゆの
智ち意い六ろくとと人ひと也なりららそそららくくとと理り入い今いま例れい乃
拵しゅひひのの魂たま膽たん吐は。毛け原げん志しるる川かわ原げんりりく

懐中より小冊と取出。先生存ても以存有ま
ト。あはれとて吉原細見乃一枚摺墨の結環
といふものあり拵は一巻といふを。去橋中
丁樓下れ麿州化しゆく堂と成り今五丁
町の光と争ひ全書いそん方れし。茶
の倡妓といふれたりと。それハ昔乃喻
草。今ぞ吉原深川とてふまぜ。あのみ

梅様拵乃よりその春見埒以上の有べき
也とて一人春見そのまきみ近き味増
とよれ。古拵教人熱く。彼とてま
き乃一枚摺。白の亦も黒の亦も一面
涙とをりくると。海山の手にかゝる吉原
まきく春見そのまある吐息とほひて中
々のハ。呼笑止るるを。取るその多我

日本小国なりといふは五穀を饒り金銀
多くを乃由に半を欠ず。藝花の地
多し。系は碓系大坂新町長崎丸山
とあり。徳園乃近里かぞへ及しが
各古説の風俗を多く伝せし。西はくさ
る。有が中にそおはる。吉原一と
いふ。二のまきも人々此をみる。

バそ受よのふかぐでぬ。世上まで目より
此里の女と戀てく。衆の外に見かた。近
き能技ハ山下に多く。茶屋とけり
ハ一匹の大評判。能くす。吉原まで
いふ。女も多し。吉原に居る由ハ
十把一からげたり。目よりなる。
廊外へ押出。掃溜の掃砂の中。金

藤と茶金乃坂州のものと評初と及
なり。斯吉系は女所の傍て宮ふつ人も
多。幼少とりの青から。多居振舞髪
容身一亂れと大切なり。虎の時とりの婦
女良仕仕の方あるとあり。就中そ古
た交格子は上品少ありて。琴三徳と
いふよ及をす。竹奇俳諧香茶の湯碁

双六碁方。何れの色にを置かすは。碁藝
と知て知て教を伝。見識有るを。碁
上の方。女良などの。碁の似ても。碁の
系あり。今乃きんちや。碁の
た交格子に。碁の。碁の。碁の。碁の。
碁の。碁の。碁の。碁の。碁の。碁の。
碁の。碁の。碁の。碁の。碁の。碁の。
碁の。碁の。碁の。碁の。碁の。碁の。

歌向あり天人が天降ると負ぬが地乃
女良なり。墨場下の賣女ども。奴ともうそ
才りある。やそりかへ玉同あふ一月一費
八百の額控あり。垂れさんとも松と
う名をかへ。嬰者傳婢にしく使ふに
つえ鉄炮店下でも追下し。免許の控
下と墨場下八雲泥万里の遠なる勢と

んせてこそ吉原ともいふべけれ。いふ所
田子成はとて。墨場下の土娼たる大生ある
名を舟く。二人死に持。歩ゆもあつけ
ぬ中。其癖を古よ膏と称。あひるの
是ぞりさん縁唄りの中の所れ人々に氣
を光しく眩摺はぬ乃いざこざ面例な
也。又下地かへ吉原に飛ぶ女良をふふ

なし親方ハ重々おんれいとれおんれい。迷まよ買かひとまよままよ入いて
もまよ高たかさまよせまよ交まよふまよありまよとまよもまよ。イまよエまよ。つまよらまよちまよ等まよハまよ是
場まよ所まよのまよ土まよ妓まよ流まよとまよ奇まよ樂まよ子まよハまよのまよ成まよいまよせまよんまよと
流まよくまよとまよせまよバまよいまよおまよ法まよをまよおまよやまよるまよ。苦まよままよがまよ音
原まよ中まよにまよ智まよ恵まようまよたまよなくまよ。女まよ良まよ小まよ氣まよがまよなまよきまよ衣まよ。
斯まよ乃まよどまようまよくまようまよ成まよりまよてまよ。剗まよ自まよ慥まよそまよハ
小まよ細まよ見まよとまよをまよ搦まよくまよ世まよ止まよハまよ恥まよとまよさまよくまよはまよるまより

是場所まよのまよやまよあまよままよでまよせまよりまよ分まよりまよとまよいまよしまよ氣まよを
やまよめまよくまよあまよがまよ来まよいまよでまよ主まよ吉まよ原まよトまよやまよとまよ古
流まよのまよ角まよとまよ翁まよさまよぬまよやまようまよにまよぢまよつまよとまよ守まよてまよ居まよる
めまよハまよ真まよ衣まよ後まよつまよめまよ衣まよ衣まよ自まよ盤まよ島まよとまよるまよくまよ。
移まよりまよ安まよさまよハまよ人まよハまよ上まよ方まよにまよくまよもまよ一まよ以まよハまよ種まよ園
所まよ語まよのまよ内まよハまよ乃まよ彩まよ地まよがまよ整まよ留まよ一まよ。新まよ所まよ語まよ系
とまよ不まよ系まよ氣まよありまよしまよがまよをまよ以まよハまよ又まよそまよろまよくまよとまよ解まよ

ハ僻^{ゆち}通^ヤへ復^かるあり思^{おも}ひ付^づけ^てく^たり^しるハ
一^り斗^ぶて^さあ^ま一^り。當年^{このと}の^ま係^{けい}な^どと^を
初^{はつ}ま^かり^てあ^うか^りし。塚^{つか}を^かく^お
り^て。取^とり^て其^{その}色^{いろ}門^{かど}と^をと^り。何^{なに}中^{ちゆう}よ
似^にく^く氣^きは^は毒^{どく}なりと^を思^{おも}ふ^人く^く乃^{すなは}ち^は福^{ふく}利^り
も有^あり^しを^しし^し病^{びやう}に^まか^るま^や茶^{ちや}ハ^いや
おと^と檢^{けん}独^{どく}樂^{らく}を^まハ^り。い^ろく^くに^あや^べく

於^お賣^うぬ^るあり^のが^けた。ま^ま工^{こう}病^{びやう}に^まか^る茶^{ちや}ハ
だ^まら^して^居る^{こと}を^まま^らる^{なり}。料^{りやう}理^りで^後
と^をま^まら^して^居る^{こと}を^まま^らる^{なり}。思^{おも}ひ^付け^るハ^まま^ら
茶^{ちや}を^まま^らる^{こと}を^まま^らる^{なり}。女^{によ}師^しの^ちと^を思^{おも}ひ^付け^る
又^{また}藝^ぎ者^{しや}幫^{はう}間^{かん}を^まま^らる^{こと}を^まま^らる^{なり}。ま^まら^るに^ぬ
ま^まら^るに^ぬ石^{いし}の^まま^らる^{こと}を^まま^らる^{なり}。か^くく^を
ま^まら^るに^ぬ必^{かならず}し^て大^{おほ}き^な面^{めん}ハ^まま^らる^{こと}を^まま^らる^{なり}。米^{こめ}が^まま^らる^{こと}を^まま^らる^{なり}。

あてをせし戸に戸あり。客人の来ぬ。
地舎が裏ひら。漆板が氣入るぬ。換板が當
世にむくぬと。代物あつものの氣つ付ず。あぢ子
玉の骨を折。今乃換は候と息ひ付が
かりしころ。中の町に男倡茶屋。大門に
で歌うた響なりしとあ。大どぶの船とつたご。
船せん頭づが出でるふとあきと。モフ
せろく

とひきく愚坊不が吉原に吉原が愚坊不
れ赤がおきぬおれが赤れ女良と賣女
のほろ賣。何でも撰よ取とり十九文。扱あき
るのちうくと眉を志くめくやと。その時を
系銀烟管ぎんまきと名乗。灰吹とくまらくと
敬うやまあぢ笑く曰。古拵子の端はきとさうり似
て玉たま低ひく。されバ古ふる拵ととと桂けいくんと。

を乃青ぬ里を肌。わがう了を身八階ワヤ
これ同一天地の方には生るる人石玉と
まけ那とまけ。村とまけ里とまけけえ。
おと備ずるハ僻事ひがことあり。いうにも若るハ
日本才一の控亦多く。女の海傍うみづかをくると
いども。百人が百人千人が千人あが
能と定くてもおも何ら。細見鳴呼わお

江戸此序も有るく。或ハ骨ほねを毛むく
意いを猪いのそ獅子しし鼻な柳やなぎ尻しりの類るいをきけり
何ら。吉原の女郎なればこそ代くは
身筋有るく女良が女郎と産にも何ら
後乃中うく能く撫なさむとあうげ
又圍場ゐばの女良もく下り細工乃由事
合ふもあうげ。つまむハ親兄弟あつち榮耀えいよう

紫苑で養ふも世に為事ほしの如り是
吉系へ行^キ鬼場下へ水も皆まて此^{ツル}園跡
づ。能^トも有^ト悪^トのとも有り。江戸あう子
ぎと藤うをを程^ト旨味も遠^ト六^トむ。りり酒
と地酒わど水の遠をも何うも六^ト吉
系にも^ト藤^ト瓜^トも。鬼場下^トあも^ト又^ト人
あり。又幼少か^トこれ育^トテか^ト。ま^ト非^ト好

るまの髪^ト容^ト才^ト一^ト氣^トぞ^トり^トと^ト大^ト切^トと^ト氏^ト朝
又非^トあり。習^ト性^トと^ト成^トと^トの^ト人^トハ。鈴^ト木^ト乃^ト梅。
うけらの松。仕^トと^トも^トよ^トる^トと^トれ^トと^ト竟^トの子
丹^ト朱^ト不^ト肖^トあり。紫^トの^ト子^トも^ト亦^ト不^ト肖^トあり
三年^ト磨^トて^トも^ト無^ト恙^トあり^ト思^トく。十^ト年
養^トて^トも^ト石^トハ^ト硬^トし。又^ト新^ト文^ト鳳^ト鳴^トそ^ト
生^トれ^トな^トり^トよ^ト能^トと^トの^ト何^トり。八^ト丈^ト鳴^トぞ

八幡^{やんぱん}くけと藏^{くらひ}王子^{みこ}かろ菊^{きく}之^の聖^{せい}也^{なり}とれを去^さ
橋中^{はしなかつ}十八^{じゅうはち}叔^{しやく}重^{じゆう}根津^{ねつ}吉^{きち}羽^は芽^め藤^{ふじ}園^{えん}にを
揚^{あき}炎^{えん}妃^ひ西^{せい}施^しが者^{もの}もあれず叔^{しやく}又^{また}尚^{なほ}世^よ
す^す疎^そ族^{しゆく}深^{ふか}川^{がわ}の汎^{はん}流^{りゅう}あるもとあらず
只^{ただ}一^{ひと}口^{ぐち}不^ふ思^し場^ば所^{ところ}とのことそとて家^{いへ}八^{はち}片^{ぺん}後^ごい
たまさるの世^よあり。吉^{きち}原^{はら}乃^の地^ち大^{おほ}小^こ陰^{かげ}す
か^から^らう^うり。一^{ひと}方^{かた}口^{ぐち}所^{ところ}も^もく^くを^をく。く^くだ

てぎ色^{いろ}バ形^{かたち}多^{おほ}くは深^{ふか}川^{がわ}の地^ち八^{はち}陽^{やう}氣^きす
て偏^{へん}ら^らず。私^{わが}乃^の通^{とほ}路^ろ自^{みづか}由^{よし}に^にく。牡^{うし}蠣^{かき}
右^{みぎ}の牡^{うし}坊^{ぼう}文^{ぶん}蛤^{かき}町^{まち}に文^{ぶん}坊^{ぼう}緞^{どん}繻^すの^の意^いに
丁^{ちやう}に名^なきく。唐^{たう}金^{きん}燒^{やき}を^を万^{まん}年^{ねん}丁^{ちやう}に^にかく
ま^まは^は。竹^{たけ}子^この酒^{しゆ}味^み殊^{こと}屋^や酒^{しゆ}房^{ぼう}二^に新^{しん}
茶^{ちや}屋^や三^{さん}新^{しん}又^{また}限^{かぎ}ら^らず。く^く茶^{ちや}へ。塩^{しほ}濱^{はま}塩^{しほ}浜^{はま}
焼^{やき}ざれども娘^{むすめ}ふ。角^{かく}力^{りき}あり。兵^{へい}儀^ぎあり

山并あり。最まけり本場の困窮下は
太公望も歩をとむ。二十三回堂の大矢敷
ま岩由基も并を添す。彩地の名のと
あく古石場乃人自和らぎ。追々客れ
入船町。拵びの形を並助登表表樓裏
樓。船残やぐら細彩地。中にも古橋中丁
に今全書れ表多く。川下は船築と紐

階入轉吏乃屯と多す。送るむらゐの提灯
と字治の螢れ花かぶぐとく。茶屋をり拵
込麻衣を唱門の法乃表がどし万毎
のた後とれやぐらとく。山海の美味刻
と心。藝者乃個子夜常不務りさ
ぎれ小奇天下よ熱れ。世上乃女忠
羽織着と。サツサラセく。の淳拍子を

皆は里と始とん。又女房は氣象といふを
 店とくると返屋あり。或ハ意の三白目のと
 目け隔は仕内なく。彩は袖をぬき度後の
 常徳寺司長持衣具徳を乞。抱乃仕意
 せ茶屋船者。率改米社の多居。紋目の敷
 く着のやうくり。色い正面れ責もななく
 同一勅といひまがく。内徳の昔一み落

く。自然と心のびやうにそ。氣象の微塵も
 やみはし今吉屋へ押出るとあまうり
 びくたりぬあり。是れでも是場所と徳
 しむやと旅を赤めく備どくまきバ。森
 布先生莞爾と打嘆て曰。此友下の争
 ひ言あたり形。各一程なきあし何
 ず。まきがく井れ内の蛙大海とまうん其



十五



十六

の空氷と云ふ所の傳ありま古より著しき
と。に神湊野上の里。大坂假粧坂の歌
と名残りく今なほ。寧ろ活きる。此代の
神恵と。般多花の地へ歌都と云ふ。此色里
多きその中よ。押出さる。免許乃地
あり。擬者あり。かくしそのる。地者有
らん。あり。そあそといふ。傾城湯女白

人踊子。比丘尼飯壺締はみ。取巻。歌
時。舟鑑次せんぎの歌と。小舟よも出さる。此
人。乃智。そらなり。近津ちかづ提督と
稱する。おとこびの手軽さ。うりいひを
とめ。山猫と名付く。化さる。物。といふ
りあらん。又地獄ぢごくといふ。名せし。は。其。初
清丸妻のとならん。いふ。もの。は。り。と。企る

と云ね根乃清なるの地獄ありと云ふも。仲る
の者れ合祠に地獄くくといひあり。今
まきと名とは成るし。そのく名も本り
たりと名あり。浪華に云く入地獄といひ
伊勢れ香羽市のづまきと名なり。かひいと名
古市と云く入んまきといふ。伊豆れ下田
せんざりあり。松崎よくおんが有り。丹

後子志也らなり。越後子に冷水浮身あせの
有り。長門の萩子かこまきし。下関にこま
拍といふ船と云掛て手をたたくより号く。
肥後不きぶ。長崎子。まゐるち有り。小
女性有り。佐列と云く。いあり。松本
子張糸あり。加賀子他名名護屋子と云。
古州糸及不板解と云。其初の女共巖

餅を賣らる所。其名とけ成る之。津輕小
げん。不といひ。美都子とておきやらくと峰。
松前西く茶籠といふ所。尻子といふ
るあり。其さと勝しきと名と悪ひ
の差別やべつにあきども情なさけを賣へつに之。極
きつるありありそへ粹まことをなく野史も
あり。其中子有りの有中に無き。其

と英しきつ面をにも取らぬ。妙しきと
醜みにくが面白くもきつありそへ。それお意
の樂ふて操千魚めいごうハ石葛藤せきくわつとめづ。鯨くじら
大海をかよぐ。牡丹と花あり。野菊も
むなうり。東郷。松まんぢうを樂む者ハ
鼻のそめるをいせせむ。是場所子抱ふ
くは是場所を宮上といふ。其系より

も筋きうくと思ふ。花系丈の味増をとる。女の
羽織と世の風俗を乱り泣先あらずは
浮拍子の拍子風俗ある事とあらずは。是
岡場下の悪風俗。又内徳乃若之為
く自然と心のむやうにしく氣象より微
塵をりやにじしとい。飽魚の鱗。臭いと
覚へど。深川は捨んで深川乃尻を覚へど。

史彼地乃女良の執替とのりり。つき出あり
あききにむりてと人乃女房を賣ゆり。
或ハ女郎の身づく新子をかゝる。身身を買
くめりりをお。掛金百兩の下早とて
いけをせぬ。穢人を茶はし。おはあや
呼合。一字をさしてりて身たり。奇の唱
奇の耳にまひ。亭の身替りのみん。

哲。家乃家名。古風兵貴。了然。大工
と志がく。雨子。王をさる。一三三王
玉と名有。涼き。海りの。忌切。不と。万
代不易。其。古。原をさる。べ。物。又。い。成。さ
。又。古。系。の。善。之。廻。の。相。臣。相。つ。ま
。この。目。乃。古。法。仕。る。せ。衣。製。乃
。操。柄。と。古。風。を。お。も。易。さ。る。ぐ。此。此

の。善。さ。派。あ。れ。ども。未。熟。の。人。乃。智
。雨。子。あ。ら。ず。又。古。操。子。に。儀。儀。充。る
。り。な。か。く。こ。を。も。去。と。は。い。く。ぎ。る
。世。話。あ。り。今。古。系。の。女。良。か。い。と
。い。く。ども。云。子。人。を。降。せ。り。忌。切。不
。り。東。を。さ。る。い。多。い。い。く。ども。五。十。人
。小。過。ぎ。孟。子。子。所。謂。詭。楚。人。これ

二五

と林まはらを多勢に去勢叶ひやさず。
園場うゑば雨乃悪風あくかぜをいりとなす
そろくくそ吉原きちげん風う寝さるあり。
みーをいそふ屋うら流ながれ山台やまだいを
碎くだせ流海身うみみ細流こまなみを碎くだせず。目乃
輝あざをぐとく鏡かがみの鏡かがみをぐとくくまうごい度大
去勢しよせいの取と込こ務員むぎん六十行列ろくじゅうごうけつの人

統と差さ万別ばんべつ乃物好ものよし粹まじと粹まじづけ面有
かり。能漢とけと純漢とけ和婚わこん一いっが守まもり
と一いっ乘ま不ふ決けつ久く。百ひゃくせとく二に度ども坊
せり。猪手しゆで次身つぎみに流生りゆうせい濟せい度ど度どい
吉原きちげんつとくぬが吉原きちげん花ハ三さん芳野ほうの女
郎らうと吉原きちげん代雨しろの橋はしを芳野ほうのへ桂けいす。
即吉原きちげん乃橋はしなり。園場うゑば雨乃流私り唱なう

ぐもきるへ来りたせ^まば^ま速^まく^ま吉原
乃^ま倂^ま岐^まなり^ま笑^まと^ま悪^まひ^まわ^まり^ま子^ま老^まく
水^ま後^まお^ま也^まき^ま

甲午の初時 浅草山又也

跋

童謡子曰。五尺體^まぐ^ま三尺解^まく。次乃
二尺ハちぎる^ま恥^まを^ま謹^まで^ま按^まぢ^まる^ま子^ま解^まる^ま
か如くちぎる^ま恥^まが^まて^まき^まて^まの^ま海^ま参^まり^ま
藁^まの^まり^ま人^まより^ま人^まあり^ま。或^まハ^ま新^ま五^ま尺^ま
石^ま部^ま金^ま吉^ま也^ま。一^ま波^ま吉^ま原^ま乃^ま風^ま子^ま

蒲きハ。中ヤ。桑ハ。あハ。と山ハ。屋ハ。の豆ハ。磨ハ。
 洗ハ。と。一。我。風ハ。来ハ。生ハ。掌ハ。
 只ハ。ふハ。子ハ。あハ。り。豆ハ。磨ハ。ハ。軟ハ。あハ。るハ。を
 以ハ。て。と。ぐ。極ハ。ハ。和ハ。まハ。るハ。を。厭ハ。もハ。ぐ。
 志ハ。六ハ。あハ。まハ。きハ。ぐハ。もハ。あハ。らハ。まハ。るハ。磨ハ。よ。膽ハ。
 水ハ。を。入ハ。ざハ。れハ。バ。練ハ。酒ハ。乃ハ。どハ。くハ。米ハ。
ハ。水ハ。を。入ハ。ざハ。れハ。バ。練ハ。酒ハ。乃ハ。どハ。くハ。米ハ。

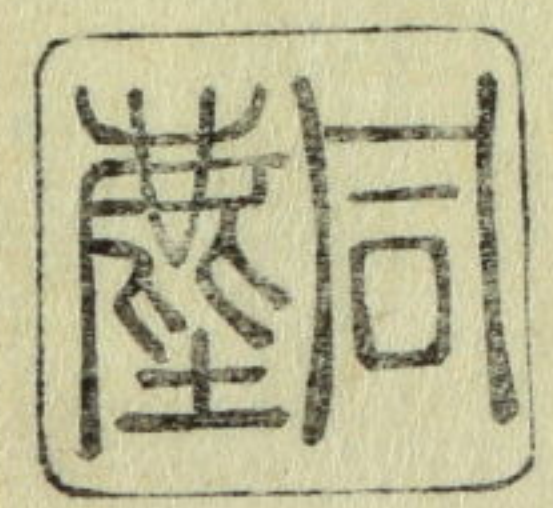
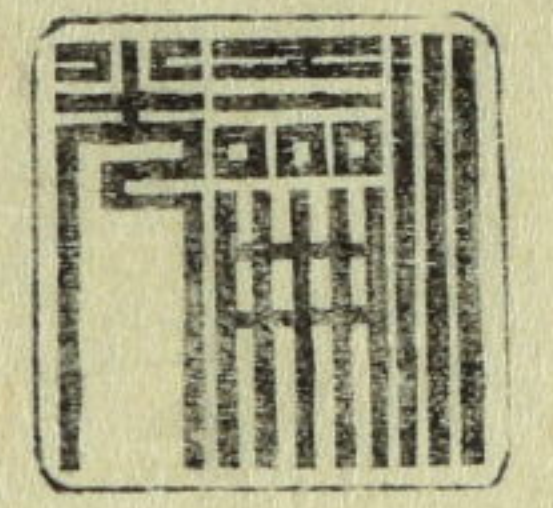
精ハ。水ハ。の。如ク。極ハ。乃ハ。苦ハ。くハ。子ハ。極ハ。あハ。りハ。れハ。バ。
 家ハ。敷ハ。子ハ。洗ハ。炮ハ。を。放ハ。しハ。似ハ。りハ。あハ。り。糸ハ。小ハ。極ハ。あハ。
 きハ。火ハ。の。光ハ。珠ハ。自ハ。明ハ。也ハ。酒ハ。洗ハ。失ハ。せハ。るハ。
 ざハ。れハ。酒ハ。を。吞ハ。みハ。酒ハ。子ハ。吞ハ。れハ。極ハ。小ハ。の。光ハ。珠ハ。
 を。吞ハ。みハ。れハ。極ハ。小ハ。平ハ。以ハ。てハ。糸ハ。小ハ。極ハ。を。吞ハ。みハ。
 と。匠ハ。あハ。りハ。子ハ。はハ。云ハ。手ハ。糸ハ。小ハ。一ハ。角ハ。乃ハ。曲ハ。
ハ。匠ハ。あハ。りハ。子ハ。はハ。云ハ。手ハ。糸ハ。小ハ。一ハ。角ハ。乃ハ。曲ハ。

又河内之能人の長巻を志あり。今此
を志あり。乃評を著し。彼義士大星
由良後の歌詠みわづらも。人皆歌
を望あり。望と本なり。此の志あり。
本を外し。末を内子と云ふ。ことなく。
身乃を浪を志あり。く詠こり。此

分ハ一時純榮花より千巻を延び
と云ふん。

安永三年甲午秋七月

内人等名子徳



夏

〇二二〇

風來先生著述書目

野夫論

近刻

虛實山師辨

全

